

## 水土里レポート 投稿様式

|           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 投稿月日      | 平成28年2月25日               |
| タイトル      | 「スイゲンゼニタナゴ」保全に向け動き出しました！ |
| 水土里レポーター名 | 水土里ネット福山 佐々田 愛           |

平成28年2月16日（火）「第3回芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が開催されました。

スイゲンゼニタナゴは、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚で、岡山県の吉井川・旭川・笹ヶ瀬川・高梁川の各水系と広島県では芦田川水系にのみ生息が確認されています。

このため、福山市ではスイゲンゼニタナゴを守るため昨年3月に「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が発足しました。水土里ネット福山も管理する疏水百選にも選ばれた「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴが生息していることから、水利権者として協議会の一員となっています。



多くの関係機関・団体が一堂に会し、それぞれの分野の貴重な意見が交わされました

これまで、地域住民や有識者、広島県、福山市の関係機関が「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ地域連携保全活動計画」を策定するため協議を重ね、それによりスイゲンゼニタナゴが減少した原因として、都市化に伴う水路・水田の減少、圃場整備や農業水利事業に伴い水路が改修され、生息環境が変化したことなどが考えられることや、現在では「芦田川用水」の農業用水路がスイゲンゼニタナゴの貴重な生息場所になっていることなどがあげられ、今後、水路浚渫をする場合など、関係各課や地元が情報を共有し施工することが重要で、全体の情報共有がもっとも必要であると話し合われました。

第3回芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会では「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ地域連携保全活動計画」が策定されました。この保全計画は平成28年度から9年間で、地域住民、研究機関、行政機関など多様な主体が保全活動に参加できる体制を構築し、これらの機関が連携した取組みを確実に展開できるよう協議会が中心となり保全活動を展開していくものです。

具体的な保全活動については、水土里ネット福山が管理する「芦田川用水」の幹線水路に隣接して淡水魚類生息水路が整備されており、幹線水路から用水を取り入れているが土砂が堆積しているため今後、再整備して活用する案など、様々な提案がありました。

また、長年地元で用水路の管理をしている水土里ネット福山の組合員や町内会の方々と連携して、水路の泥上げ、草刈り、清掃、パトロール、モニタリング調査を継続して実施する事や水域又は水辺が改変される工事等が実施される場合には協議会へ事前に連絡し、工事の施工方法に注意を払うことなどが協議されました。

平成28年度の活動として、普及啓発のために環境学習会の開催や生体の水槽展示、生息地の町内会の会合の席で周知することやシンポジウムなどの開催も計画されています。

水土里ネット福山では早速、3月に開催予定の理事会の終了後に「スイゲンゼニタナゴを守る市民の会」事務局長の盈進学園 古本哲史先生から啓発のため講演をしていただくこととなりました。

また、福山市と盈進学園の協力により毎年実施している「芦田川用水」丸川分水工の産卵母貝のモニタリング調査も実施時期を確認し用水止水などの調整を行っているところです。



組合員による水路清掃の様子



産卵母貝モニタリングの様子

翌日には、中国新聞の朝刊で「絶滅危惧の魚 保護を本格化」と大きな見出しで「第3回芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が開催され保全計画をまとめられたことが報じされました。

広く市民にもスイゲンゼニタナゴを知ってもらい、保護に向けた活動が大きく発展することを願い、いよいよ、スイゲンゼニタナゴを守るために多くの関係団体・機関が協力して保全活動が具体的に動き出したことを実感しました。

水土里ネット福山でも、この保全活動が21世紀土地改良区創造運動にも繋がることから、様々な活動に積極的に協力し、今後も水土里ネット福山の取り組みや疏水の素晴らしさ、豊かさを発信していきたいと思います。